

ワークショップ進行シート

作成日： 2014 年 7 月 29 日

タイトル： 子どものし・ご・と・って何だろう？

ファシリテーター（グループ）：新潟県立大学日本語WS

1：本ワークショップの要旨

世界には大きな学力格差が存在する。その理由として挙げられるのは児童労働である。児童労働で働いている子どもの多くは日本では義務教育で学校に行っているような年齢の子ども達である。日本の子ども達が安全に学校へ行けている現状からは考えられないような状況が世界にはある。そんな光景を、ワークショップを通して生徒に伝えることで、普段私たちが何気なく学校に通えるのは環境が整っているためであるということの世界との比較を踏まえながら考えてもらう。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

今回のワークショップでは、児童労働や教育格差について受け手に議論や様々なアクティビティを通じて考えてもらう。それによって、国際理解への関心を深めてもらい、今後自分で調べてみたくなるような意欲をかりたてることを本テーマの目的とする。

3：本トピックをとりあげる理由

日本の子ども達は、義務教育の環境で育ち知識や経験を育むことができる。しかし、貧困の中で生活する子ども達は日本の子ども達のように好きなことを好きなだけ学べるというわけではない。また、子供たちが働く児童労働についても働かなくてはいけないという状況があるということを理解してもらう。ワークショップの中でアクティビティや議論を通じて世界の現実について理解し、自分たちができることは何なのかについて考えてもらう機会を提供するため。

4 : 活動過程

(使用時間 : 85分 参加人数 : 35人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する 教材 ・備品	予想される反応、その他、注意事項
アイスブレイキング (10分)	あだ名決め	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人にくじをひいてもらい、その日限定のあだ名を決める。 ・WSを受ける全員がそれぞれのあだ名で呼びあう。 ・男の子、女の子をスムーズに一行に並ばせるために、目標時間を定める。 ・並んでからくじ引きを引くまでの5秒カウントをPPTで行う。 ・あだ名を引いた後にすぐ見ないように声がけをする。 ・あだ名はこのあとのGWでも活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あだ名を決めてもらうことによって、発言への羞恥心を薄める。 ・コミュニケーションの促進。 	シール、マーカー、くじ引きの箱、ストップウォッチ、PPT	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に終わらせるように協力し合う。 ・あだ名で呼び合うことで、盛り上がる。 ・男の子、女の子専用の箱を用意する。 ・盛り上がりすぎに注意。

<p>導入 :起 (25分)</p>	<p>寸劇 (3分)</p> <p>識字率 (3分)</p> <p>なんで読めるの? (7分)</p>	<p>あらすじ</p> <p>文字が読めない少女がなんでも屋さんでりんごを買う。3種類あるりんごのうち、1種類は毒りんごである。</p> <p>りんごを買う人 : 1人 りんごを売る人 : 1人</p> <p>少女は文字が読めなかったために、毒りんごを選んでしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇をしないファシリテーターは小学生と共に劇を見て、ポイントを見逃さないように声をかける。 ・劇の後にファシリテーターから状況説明(解説)をすることによって、状況を把握させる。 ・寸劇を見て楽しんでいる小学生の目線を誘導させる。 ・レクチャーが続いていて、飽きてくる小学生が見られる可能性があるため、次の議論に繋がるように疑問を投げかける。 ・小学生が挙手しやすいように、ヒントを与える。 ・ファシリテーターはグループの子に疑問を投げかける。 ・挙手する小学生がいない場合は、大学生が小学生になりきって雰囲気づくりをする。 ・ファシリテーターに先導して 	<p>文字が読めないと困ることが存在することを、寸劇を通して実感してもらう。</p> <p>識字率のグラフを示して、世界の現実(文字が読めない人が世界にはいるということ)を目の当たりにさせる。また、日本の識字率を提示することで次の議論へ繋げる。</p> <p>なぜ自分たちが文字を読むことができるのかを考えてもらい、挙手制で挙げてもらう。学校に通っていることで文字が読めることをPPTで可視化することで、日本の識字率の高さ(前の議論)の理由を感じさせる。</p>	<p>りんご、厚紙、カンペ</p> <p>PPT、カンペ</p> <p>PPT、模造紙、カンペ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寸劇を通して、文字を読めない状況が大まかに想像できる。 ・寸劇を楽しみだけで終わらせずに、メリハリをつけさせる。 ・小学生自身にグラフを比較してもらう。 ・元気よく手を挙げる。 ・さまざまな意見を出す。 ・挙手制のため、手を挙げられる子と挙げられない子が出る。 ・意見を聞く子を偏らないようにする。 ・挙手してもらう部分と、話を聞いてもらう
------------------------	---	---	---	---	--

	<p>なんで読めないの？ (6分)</p> <p>生活をのぞく (6分)</p>	<p>声を出してもらおう。</p> <p>グループで考えたのち、発表してもらおう。</p> <p>・私たちが学校に行っている間、ある町の子どもたちは何をしているのか、円グラフを空白にして問題を出す。</p> <p>・3択を PPT に出したとき、どんな回答が出てても否定しない。</p>	<p>前の議論で日本の識字率の高さを感じさせた上で、なぜ世界の子どもの中で文字が読めない子が存在するのかを考えさせる。</p> <p>想像をさせるために前の議論で挙げても良かったことができないのでは？と疑問を投げつける。疑問を投げつけることで、世界の現状への興味を沸かせる。</p> <p>日本の子どもたちの生活円グラフを並べて出すことで比較しやすくなる。選択肢を3つ用意するが、答えは言わずに展開にもっていく。</p>	<p>PPT、前の活動で使った模造紙、マグネット付の厚紙、カンペ</p> <p>PPT、カンペ</p>	<p>部分のメリハリをつける。</p> <p>・「かもね」により、なぜ読めないのかという疑問をより強める。</p> <p>・かけ言葉を全員で言うことで、その場の一体感を生み出す。</p> <p>・日本と比較することで、世界の識字率をより理解できる。</p> <p>・かけ言葉に気をとられて内容に集中できなくならないようにする。</p> <p>・問題を真剣に考えだす。</p> <p>・現状の想像がつかないため、具体的に考えられない。</p> <p>・問題形式のため、ゲーム感覚で楽しむ。</p> <p>・真剣に考え込ませないようにする。(この時点では、重い雰囲気になりすぎないように)</p> <p>・クイズに正解すること、ゲーム感覚で楽しむことに偏りすぎず、考えさせること、想像させることに重点をおくようにする。</p>
--	--	---	--	---	---

<p>展開 : 承 (35 分)</p>	<p>劇 (5分) 「旅人の挑戦」</p>	<p>あらすじ 旅人がある街を訪れる。ある街で旅人は3人の子どもと一人の大人に出会う。子ども達は兄弟のお守をしていたり、児童労働に従事させられている。そのため、学校にいけない。旅人は、その街の住人達に質問するが、学校に行けていないため字が読めない。その街の住人に会った末に、旅人は義務教育にすることを思いつく。</p>	<p>日本では、義務教育で学校に行くのが普通だが、様々な理由があつて学校に行くことができない子ども達がいることに気づいてもらう。</p>	<p>PPT</p>	
	<p>議論① (10分) 議論と同時進行で確認シートの空欄を埋める。(シートの記入はファシリテーターが行う。)</p>	<p>議論は二段階で行う。 ① 義務教育に賛成か反対かを問う。 賛成・反対の理由とそれによって被害を被ってしまう人(劇で登場するA~Cさん)を各班で発表。 ② 義務教育をとるにしろとらないにしろ不利益を被る人はいることを確認した上で、今度は自分たちで解決策を考えてみる。まとまった内容は班ごとに発表する。</p>	<p>劇の内容を通じて義務教育によって起こりうる影響を考える。 自分で実際にこの町の問題の解決策を探すことによって世界の現実を身近に感じることができる。また、他の班の発表を聞くことで新たな発見を期待する。</p>	<p>画用紙、付箋、ペン</p>	<p>議論を進める前に確認シートを使って劇の内容について確認する。 議論①では賛成と反対の人に分かれてもらいそれぞれ考える。</p>
	<p>レクチャー (5分)</p>	<p>劇の中で登場する、紅茶農園での労働やサッカーボールの製造などは世界で実際に起こっている事柄である。 解決するための取組を紹介する。</p>	<p>自分で行われていた現実に対して世界で実際に解決法について知ってもらう。</p>	<p>PPT</p>	

<p>まとめ : 結 (15 分)</p>	<p>「まとめ」 おさらいを 受けて、こ ちらが用意 したメッセ ージを伝え る。</p> <p>「リンゴの 木」 みんなで議 論しあった 貧困に対し ての解決策 をリンゴの 付箋に書い て持参した 模造紙に一 人一枚貼る</p>	<p>伝えたいこと 「みんなができると思ったこと をやること」</p> <p>今回のワークショップの場合、 貧困について解決するために自 分で情報を調べて、解決策を考 え身近な人からでもいいので発 信していくこと (一例として)</p> <p>リンゴの木を作るにあたって、 今すぐ達成できそうな事柄は木 の下の方に貼る、努力が必要な ものは上のほうに貼る。 →今できることと努力が必要な ものを可視化する。</p>	<p>議論や他の班の発表 を通して最終的な自 分の考えを見つけて もらうこと</p>	<p>PPT</p> <p>リンゴの 形の付箋、 模造紙、ペ ン</p>	
----------------------------	---	---	--	--	--

